

3. 経営成績及び財政状態

(1) 当期の業績等の概況

- 業績の状況

当期のわが国経済は、長いデフレ状態が継続する中で、夏場の異常気象や米国における同時多発テロの影響などによって一段と厳しい状況が続きました。とりわけ医薬品業界は、医療費適正化諸施策の浸透などによって、ますます難しい事業環境に置かれております。一方、海外でも米国、欧州及び中国を除くアジア諸国など全般的に景気の低迷が認められております。

当社は、このような状況の中で、当期も新製品の投入や新市場の開拓など、積極的な営業活動を展開しましたが、連結売上高は2,713億9千7百万円余（前期比1.1%減）になりました。

事業別の売上高は次のとおりであります。

セルフメディケーション事業	1,924億円余（前期比3.3%減）
内訳	
一般用医薬品等	1,834億円余（前期比3.4%減）
家庭用品および公衆衛生用剤	73 "（" 3.1%増）
その他	15 "（" 8.4%減）
医薬事業	789億円余（前期比4.6%増）
内訳	
医療用医薬品	625億円余（前期比5.8%増）
その他	96 "（" 4.8%減）
工業所有権等使用料収益	67 "（" 8.8%増）

国内における売り上げの動向は次のとおりであります。

セルフメディケーション事業では、ドリンク剤の「リポビタンシリーズ」は新製品の「リポビタンD」や「リポビタン11」の貢献がありましたものの、シリーズ全体ではほぼ横這い（0.4%減）でした。コンビニエンスストアや食品スーパーなどの新チャネルでの伸びが薬局チャネルでの落ち込みでほぼ相殺されたものであります。ドリンク剤「ゼナシリーズ」（21.8%減）や壮年性脱毛症における発毛剤「リアップ」（21.8%減）などの高額品および胃腸薬（1.4%減）は低調でした。風邪薬「パブロンシリーズ」（2.0%増）や水虫薬「ダマリンシリーズ」（13.9%増）は新製品の投入によって上伸びしました。

3月に発売した特定保健用食品「コレスケア」（コレステロールの吸収抑制成分を配合）は順調な出足を見せております。

医薬事業では、主力のマクロライド系抗生物質「クラリス」（11.3%増）および昨年2月に新発売した非ステロイド性消炎鎮痛剤「ロルカム錠」が順調に成長した一方で、仕入れ商品の骨充填剤「バイオペックス」（68.5%減）が流通在庫の調整により大幅に減少、末梢循環改善剤「パルクス注」（9.2%減）も減少するなどの変動がありました。しかし、全体では前年実績を上回ることができました。なお、米国メルク社へ導出した精神分裂病薬候補物質の契約金収入による工業所有権等使用料収益の増加などもありました。

海外におけるドリンク剤の売り上げは、マレーシア、フィリピン、上海などのアジア市場を中心に概ね順調に推移しました。

利益面につきましては、前記のような売り上げの減少と、販売促進費、退職給付費用などの諸経費の増加などによって経常利益は674億7千2百万円余（前期比8.6%減）となりました。経常利益が前年同期比減少したのに対し、当期純利益が373億6千1百万円余と前期比大きく増加（19.5%、60億

9千2百万円増)しましたが、これは前期に特別損失として退職給付会計基準に基づく会計基準変更時差異の費用処理額173億円余を計上したことが主因であります。

- 連結キャッシュフローの概況

当期末における現金及び現金同等物は260億6千4百万円で、前期末に比べ31億9千9百万円増加致しました。

(営業活動のキャッシュフロー)

営業活動の結果得られた資金は446億5千4百万円(前期比80億4千4百万円増)となりました。税金等調整前当期純利益は664億4千6百万円と前期に比べ105億7千7百万円増加しましたが、これは前期に退職給付会計導入初年度で会計基準変更時差異の費用処理額173億7千4百万円を計上したのが大きな要因です。減価償却費は141億8千9百万円(前期比3億8千2百万円減)、法人税等の支払額は379億6百万円(前期比15億2千7百万円減)ありました。

(投資活動のキャッシュフロー)

投資活動の結果使用した資金は304億5千5百万円(前期比25億4千9百万円増)となりました。大宮物流センター、本社第2ビルの建設や岡山工場のドリンク剤ラインの増設などによる有形固定資産の取得が213億6千6百万円(前期比104億9千1百万円増)、ERP導入に伴う無形固定資産の取得が61億3千7百万円(前期比56億2千5百万円増)と増加しております。

(財務活動のキャッシュフロー)

財務活動の結果使用した資金は114億8千万円(前期比54億2千万円減)となりました。

(2) 次期の見通し

次期は、引き続き景気の低迷が予想される中で、大幅な薬価基準の引き下げが行われ、売り上げの面で依然厳しい見通しであること、一方、経費面でも岡山工場のドリンク剤ラインの増設などの償却負担増があるなど、難しい事業運営を余儀なくされるものと考えられます。

次期の連結業績見通しは次のとおりであります。

(平成14年3月期比)

売 上 高	2,735億円	(0.8%増)
経 常 利 益	655 "	(2.9%減)
当 期 純 利 益	373 "	(0.2%減)